

エンカレッジスクールの在り方検討委員会

報 告 書

平成 16 年 6 月

はじめに

東京都教育委員会は、平成14年6月、都立高校改革の一環として、力を発揮しきれずにいる生徒が社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的学力を身に付けることを目的に、基礎学習を中心に体験学習や選択授業を大幅に取り入れた学校を「エンカレッジスクール」として位置づけ、足立東高等学校及び秋留台高等学校の2校を指定した。両校は、平成15年度からエンカレッジスクールとしての新入生を受け入れ、「30分授業」及び特色ある「体験学習」等の思い切った指導を展開している。1年間の取組も終わり、エンカレッジスクールの学校像、教育理念及び教育課程等のイメージは具体化されてきた。

この新しいタイプの高校について、その教育活動の成果の分析・評価と今後の在り方について検討するため、平成15年3月に「エンカレッジスクールの在り方検討委員会（以下「検討委員会」という。）」を設置した。検討委員会では、同年6月に足立東高等学校及び秋留台高等学校の生徒、保護者及び生徒の出身中学校の進路担当教員を対象にアンケートを実施した。さらに、そのアンケートの結果を受け、同年8月には、中学校長からの意見聴取を秋留台高等学校の周辺地域で5校、足立東高等学校の周辺地域で5校の計10校で実施した。

また、検討委員会では、平成15年4月の開校から平成16年3月末までの1年間の足立東高等学校及び秋留台高等学校における取組状況、エンカレッジスクールとしての2回目の入学者選抜の状況も含めた両校からの報告に基づく課題の整理と取組内容に対する評価及び今後の方向性について検討を進めてきた。そして、これら1年間の両校における取組を踏まえて、今後のエンカレッジスクールの展開の在り方及び指定対象校の範囲等についての方向性を示すに至った。

本報告書が、今後のエンカレッジスクールの一層の充実した学校運営に活用されるとともに、広く、都立高校の個性化・活性化の一助となれば幸いである。

エンカレッジ(encourage):「力づける・勇気づける・励みになる」等の意。
文法的にはencouraging school、となるが、呼称は「エンカレッジスクール」とする。

目 次

1 指定校2校のこれまでの取組について	
(1) 年度比較	1
(2) 30分授業	3
(3) 習熟度別授業	4
(4) 体験学習	4
(5) 二人担任制	8
(6) 公募教員	8
(7) 入学者選抜	9
(8) 成績評定	9
2 課題と今後の方向性について	
(1) 教育課程	10
(2) 指導体制	12
(3) 入学者選抜	13
(4) その他	13
3 今後のエンカレッジスクールの展開について	
(1) エンカレッジスクールの拡充	13
(2) 指定対象校の拡大	14
(3) 教育委員会の支援策	15
(資料)	
1 アンケート結果(概要)	
2 中学校からの意見(抜粋)	
3 エンカレッジスクールの在り方検討委員会設置要綱	
4 エンカレッジスクールの在り方検討委員会委員名簿	
5 エンカレッジスクールの在り方検討委員会検討経過	

1 指定校2校のこれまでの取組について

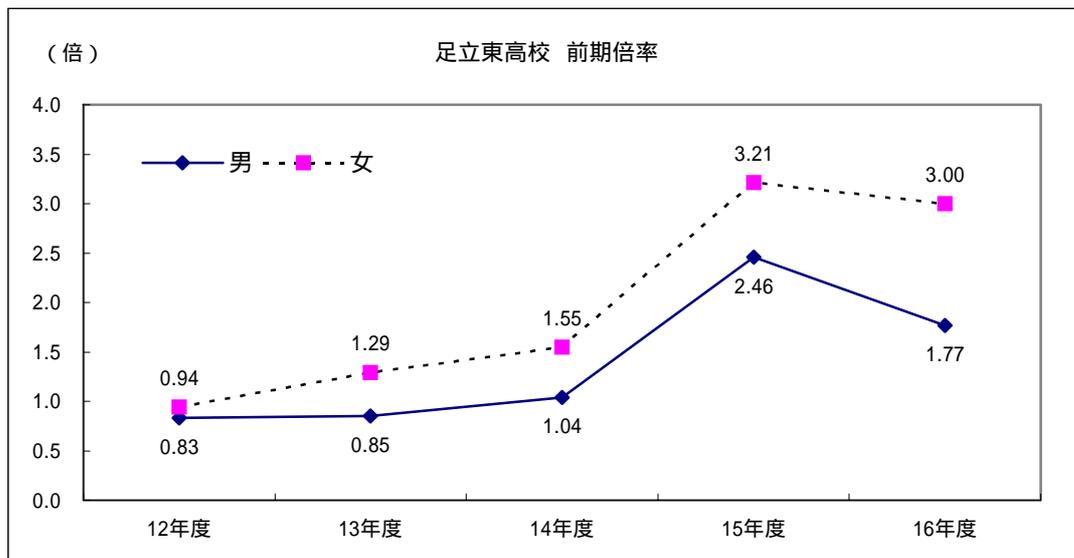
(1) 年度比較

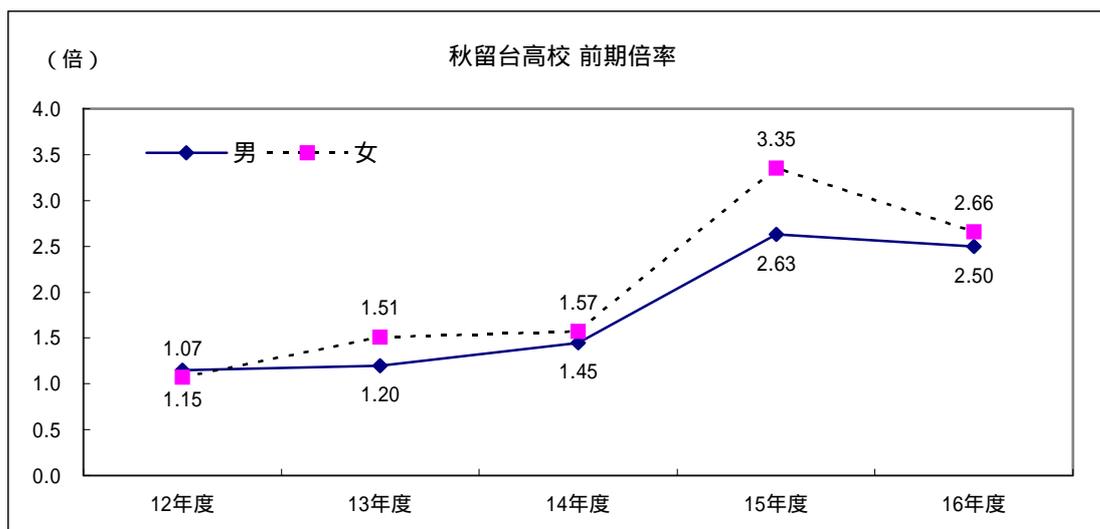
ア 入学者選抜状況

足立東高校では、平成14年度の入学者選抜までは、男子においては定員を満たさない状況もあったが、エンカレッジスクールの指定後の平成15年度、16年度においては、秋留台高校とともに都立高校普通科の中でも屈指の高倍率となっている。特に、女子の倍率の高さが顕著である。

秋留台高校では、エンカレッジスクールの指定前の平成12年度より自立的な改革に着手し、平成13年度に入学者選抜の改善、平成14年度から独自に「普通科総合選択制」を導入し、中途退学者を減らし、生き生きとした学校づくりための努力を続けてきた。その成果は、エンカレッジスクール指定ともあいまって、平成15年度入学者選抜に顕著に表れた。さらに、平成16年度においても高倍率を維持しており、その成果は定着してきたと思われる。

(受検倍率)		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	
足立東	推薦	男	0.74倍	0.33倍	0.96倍	1.59倍	1.24倍
		女	1.38倍	1.10倍	1.81倍	2.46倍	2.11倍
	前期	男	0.83倍	0.85倍	1.04倍	2.46倍	1.77倍
		女	0.94倍	1.29倍	1.55倍	3.21倍	3.00倍
二次・後期	1.91倍	1.98倍	2.28倍	1.32倍	1.97倍		
秋留台	推薦	男	1.59倍	1.25倍	2.07倍	2.11倍	2.38倍
		女	1.73倍	1.96倍	2.31倍	3.00倍	2.85倍
	前期	男	1.15倍	1.20倍	1.45倍	2.63倍	2.50倍
		女	1.07倍	1.51倍	1.57倍	3.35倍	2.66倍
二次・後期	-	4.54倍	4.47倍	2.81倍	2.81倍		



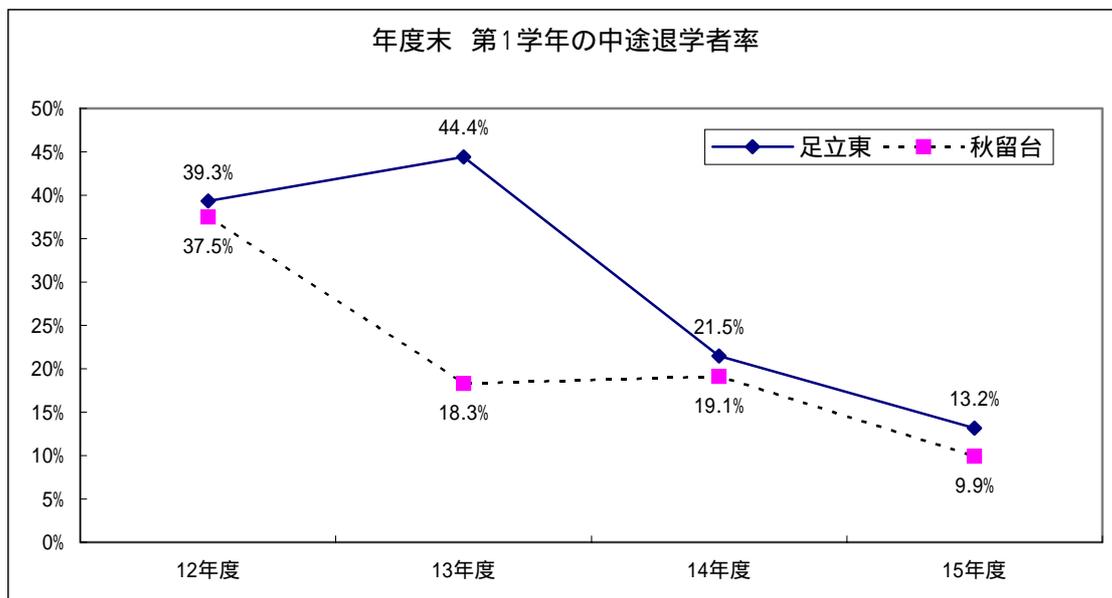
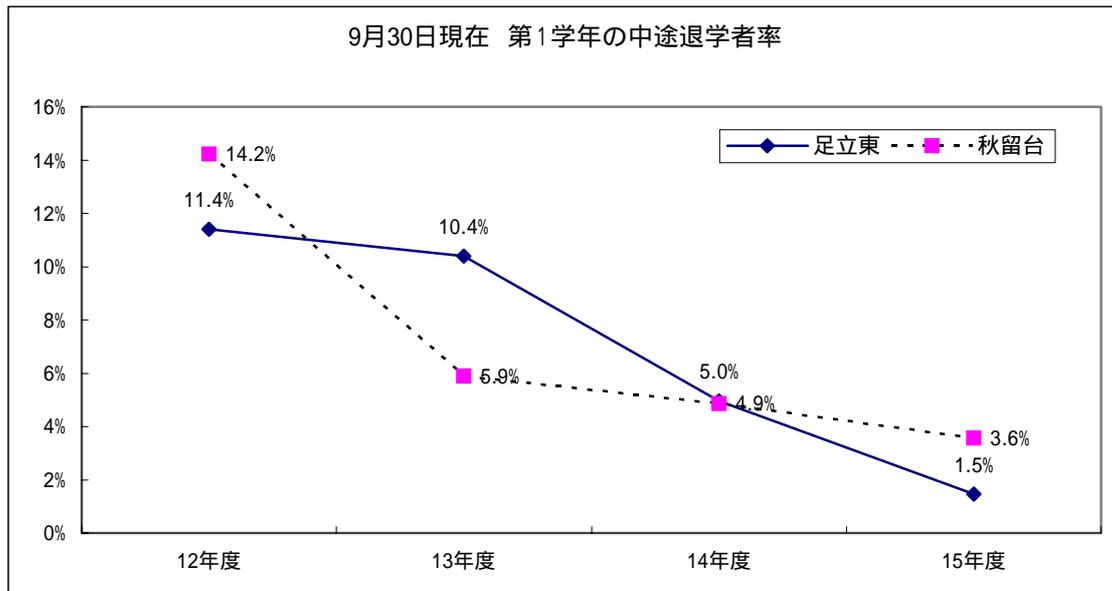


イ 第1学年の中途退学者数

中途退学者については、両校とも平成12年度までは、30%を大きく超える退学率であったが、共に自立的な学校の改革の取組により、秋留台高校では平成13年度より、足立東高校では平成14年度より改善されてきた。エンカレッジスクール指定後の平成15年度においては、その流れが一段と加速して、足立東高校で21.5%から13.2%へ、秋留台高校では19.1%から9.9%へと両校とも大きく改善されてきている。

第1学年の中途退学者数・率

		12年度	13年度	14年度	15年度
足立東	生徒数	272人	250人	242人	205人
	9/30 現在	31人	26人	12人	3人
	退学率	11.4%	10.4%	5.0%	1.5%
	年度末	107人	111人	52人	27人
	退学率	39.3%	44.4%	21.5%	13.2%
秋留台	生徒数	288人	289人	288人	252人
	9/30 現在	41人	17人	14人	9人
	退学率	14.2%	5.9%	4.9%	3.6%
	年度末	108人	53人	55人	25人
	退学率	37.5%	18.3%	19.1%	9.9%



(2) 30分授業について

エンカレッジスクールでは、「個に応じた指導とわかる授業の確立のため、国語・数学・英語等の教科では、基礎学習を重視する」としている。

この方針に基づき、1・2時間目を30分3コマとして、国語、数学、英語を中心に30分授業を習熟度別授業で実施している。なお、足立東高校では、3教科に社会科を加えて4教科で実施している。

生徒からの感想では、「時間が長すぎまた短すぎないのがとてもいい」、「集中して勉強できる」、「勉強が楽しくなった」、「30分だから眠くならない」など約7割強の生徒が肯定的にとらえており、学習に対する生徒の前向きな姿勢が見られるようになって

ている。

また、短時間の授業で生徒の集中力が維持されることで、教員が指導方法の工夫を凝らし、さらに習熟度別での授業とあいまって、生徒一人一人にきめ細かな指導が行き届き、学習効果は上がっている。

(3) 習熟度別授業について

エンカレッジスクールは、30分授業と並んで、「個に応じた指導とわかる授業の確立」のため、生徒の学習到達度に応じて習熟度別学習を導入するなど、必要に応じて少人数指導体制をとることを特色としている。

足立東高校では、入学直後に国語、数学、英語の3教科でグループ編成テストを実施し、学習到達度に応じたグループ編成を行い、2クラスを4講座(小5,6 中1,2 中3 高1)に分けた授業を実施している。なお、初級レベルのクラスでは少人数授業で実施している。

秋留台高校では、数学、英語の2教科で1クラスを2講座(Aクラス60%、Bクラス40%)に分けた習熟度別授業を実施している。

習熟度別授業及び30分授業の効果により、「勉強がゆっくり進んでいるからペースについて行ける」、「わかりやすく楽しい」などの生徒の感想もあるように、生徒が授業に積極的に生き生きと参加するようになっている。生徒が授業を理解し、集中できていることから、従来見られた授業中の私語、居眠り、化粧、携帯電話等がほとんどなくなってきた。

また、生徒の授業に対する意欲が高まった結果、同時に教員も刺激を受け、生徒にとってより「わかる授業」を目指し、さらに意欲的な授業を行うようになってきている。

(4) 体験学習について

エンカレッジスクールでは、授業に興味・関心のある生徒に意欲がわいてくるような教育、ゆとりの中で生きる力をはぐくめるような教育、及び多くの人との出会いにより、自らを律し、他者と協調し、他者を思いやる心など豊かな人間性をはぐくむ教育を推進するため、体験学習の重視を大きな特徴として位置付けている。

このため、これまでの学力観や指導・評価観を見直し、生徒の良さに着目して、学習意欲の喚起に努めるとともに、基礎的な学習に加え、地域奉仕活動等のボランティア活動・福祉活動、課題研究等の体験学習及びものづくりなどの実習的な学習を教科・科目に位置付ける。さらに、体験学習に併せて、社会に出てからすぐに役立つ資格の取得等実用的な教育を取り入れるなど、特色ある科目を設置することとし、実技教科の学習を発展させた体験活動、生徒の興味・関心に応じた体験学習を導入するとした。

これを受け、足立東高校及び秋留台高校の2校では、体験学習について下記の取組を行っている。

ア 足立東高校

足立東高校では、体験学習を「体験 」と「体験 」とに分けて実施している。

「体験 」では、火曜日午後(2単位)に体育的学習(11講座)と文化的学習(11講座)の2分野22講座を設定し、生徒はこれらの講座の中から1講座を選択し、1年間を通して学習する。専門的知識・技能を要する講座については、外部講師により対応している。

「体験 」では、木曜日午後(2単位)に12講座(校内学習=4講座、校外学習=8講座)を設定し、生徒はこれらから5講座を選択し、年間5期に分けて学習している。校内で実施することが難しい講座や専門的な知識・技能を要する講座については、地域の事業所などボランティアの協力を支えられて実施している。

体験学習に参加した大半の生徒は、生き生きと意欲を持って活動している。特に、体験 を経験した生徒を中心に部活動が活性化し、この数年見られなかった朝練習も復活している。

また、市民講師の参加により本物に触れる体験ができると生徒には好評で、その面でも前向きな姿勢を引き出すことができている。

体験

体育的学習	バスケットボール(男女)、 バレーボール(女)、 バトミントン(女)、 ダンス(女)、 卓球(男)、 剣道(男)、 トレーニング(男女)、 体操(男女)、 硬式テニス(男女)、 サッカー(男)、 陸上(男女)
文化的学習	演劇(女)、 中国語(男女)、 茶道(女)、 陶芸(男女)、 写真(女)、 軽音楽・プラスバンド(男女)、 和太鼓・琴(男女)、 絵画(男女)、 囲碁・将棋(男女)、 イラスト(女)、 フラワーデザイン(女)

体験

1 機械・自動車整備	西亀有にある自動車整備専門学校で整備学校の生徒と一緒に授業を受ける。自動車の構造・機能や維持管理に関する基礎を学ぶ。
2 サービス業	実際の仕事の現場に出かけ、仕事とは何かを肌で感じながら学習する。近隣のスーパーや美容室等での就業体験を行う。
3 福祉	福祉の仕事に興味がある人を対象に、福祉作業所、老人ホーム、保育園などの訪問・実習。高齢者・障害者の疑似体験なども実施する。
4 園芸・農業	学校農園やプランターで季節の野菜や花々を育てる。たい肥作りや草取りといった地道な作業から、収穫野菜の試食といった楽しみもある。
5 ものづくり	紙工作や木工を通じて、ものづくりの難しさと作品ができあがったときの喜びを体験する。校外に見学に出ることもある。

6 商業	個人商店や様々な取引を帳簿に記入する方法について勉強する。将来、事務系の仕事を希望する人向けの講座である。
7 情報	パソコンの基本操作について勉強する。タイピングの練習、ワープロソフト・表計算ソフトを用いての書類作成などを行う。
8 調理	基礎的な調理技術や知識、テーブルコーディネート等を学ぶ。食物調理技術検定4級取得のための基礎的な内容も学習する。
9 ファッション	ピンワーク、浴衣の着付け、針やミシンの練習、簡単な小物類の製作等を行う。被服製作技術検定4級の基礎も学ぶ。
10 医療・看護	看護師の資格のある方を講師に迎え、看護体験、応急救護体験等を学ぶ。また、医療の一つとして歯科技工も体験する。
11 英語検定	基本の5～3級の中から、力に応じて目標を設定し、合格を目指して筆記、ヒアリング、スピーキングの勉強をする。受検は年3回。
12 漢字検定	「漢字検定」に向けての勉強を、基本の8級から順次レベルを上げていく。ゲームも取り入れ、楽しみながら実力アップを目指す。

協力団体(平成15年度)

体験学習 の実施に当たり、協力をいただいている団体は以下のとおりである。

機械・自動車整備 東京自動車整備専門学校

サービス業 スーパーいずみ、あおいピーマン、クロロ&シェイプ、島忠ホームセンター、イトーヨーカ堂、白木美容室、サロン・ド・ロワール

福祉 綾瀬あかしあ園、綾瀬ひまわり園、大谷田第一保育園、大谷田第二保育園、東谷中保育園、辰沼保育園、ゆうあいらんど・さの、西水元あやめ園、風の子クラブ、都立城北養護学校

医療・看護 足立消防署

園芸・農業 J A 足立

イ 秋留台高校

秋留台高校では、総合的な学習の時間において、平成14年度より総合A(ベーシック)と総合B(トライ体験)を設定している。このうち、総合Aのベーシックは、各教科科目を学ぶ上での基礎・基本の習得と学習意欲の向上と動機付けを目的として、漢字の読み書き及び計算等を自学自習できるようにしている。そして、総合Bのトライ体験では、第2学年次以降の系列選択制^{*}に結びつく学習ができるように設定している。

総合A「ベーシック」

ベーシックは、総合的な学習の時間の「横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かす」の趣旨に沿って、すべての学習を行うに当たっての基礎・基本の徹底を図るものであり、週当たり1時限を、漢字の読み・書き、計算等

に充てている。これは事前に自己診断を行い、自分に不足する基礎学力の学習計画を立て、それにしたがって学習を進めていくものである。個々の生徒は、各自の段階にあった漢字の読み方、漢字の書き取り、計算問題等に取り組む。したがって、一斉授業という形式ではなく、個々のレベルに合った進め方ができ、でき上がり具合を数名（現在は4名）の担当教員がチェックしている。分からないこと及び間違えた所を教員に教わり、自分でやり直して「合格」とすると、次のステップに進むこととなる。

また、生徒の個人差が大きいので、その評価も一律に行わずに、一時間当たりの進度を規定するほかは、努力の度合いを見る（自己評価）、という加点評価にしている。そして、遅れがちな生徒には補習を行い、なるべく平均的な生徒との格差が出ないように指導している。

総合B「トライ体験」

1年生が「トライ体験」（2単位）として実施している。将来を考えた、自らの興味関心に沿ったテーマを探すための一助として、第2学年時の系列選択制に結びつく講座を、1年間を通して体験していく授業である。年間を通して次の7テーマ**をそれぞれ4つの小テーマに沿って体験している。

*系列選択 「系列選択」とは、自らの興味関心、又は将来の進路を見すえた学習ができるように、「情報系列」「生活系列」「体験系列」の3系列と「共通履修講座」の中から科目を選択する授業で、第2学年次に6単位、第3学年次には10単位の計16単位を選択する。これらのうち3系列には教養を身に付けたり、スポーツに親しむことができる講座を用意し、「共通履修講座」では、上級学校進学や資格取得のための講座を用意している。

**7テーマ（平成15年度実施）

1 和太鼓体験	テーマ 集団ゲームや和太鼓の練習発表を共に経験することで、新しい自分を発見し、人と人がかかわり合うことの楽しさを知る。 小テーマ 太鼓になれよう/バリエーションを増やそう1/バリエーションを増やそう2/みんなで叩こう
2 インターネット入門	テーマ インターネットの方法を学びながら、情報化社会に積極的に参画していく知識や態度を身に付ける。 小テーマ ログイン/情報検索/メール実習/チャット
3 グループワーク トレーニング(GWT)	テーマ 集団で問題に取り組み解決する経験を通して、自分で自分を育てることのできる「力」を身に付ける。 小テーマ GWTとは?/GWT(体験1)「パズル合わせ」/GWT(体験2)「九人の食事」/「町のお店やさん」/GWT(体験3)GWTのまとめ
4 夢の実現のために	テーマ あなた自身の将来について考える「旅」がはじまります。この旅への道しるべとして 進路適性検査 夢 ライフプラン 職業 というテーマを用意しました。夢の実現のために、何が必要か考えてみよう。 小テーマ 旅をはじめよう/夢をみよう/将来を探る。ライフプラン/職業を探る

5 からだのしくみ	<p>テーマ 「自分を知る」には、まず自分の体のつくりがどうなっているのかを知っておく必要があります。だれでもが身に付けたい救急法を通し、「健康とは」を問いかけます。 小テーマ からだのしくみ/実写で見る人体の構造、人体骨格模型の作製/救急法1止血法、包帯、三角巾など/救急法2人工呼吸、心臓マッサージなど</p>
6 人と自分 前期：福祉を考える 後期：古代体験	<p>テーマ 「相手の立場になって考えること」これが福祉の基本です。普段、身の回りの人に対して、どれだけ「相手の立場になって」考えたり行動したりしていますか。 小テーマ 今までの自分に気づいてみよう！/口話法や手話を学んでみよう！/古代体験1火おこし、勾玉作り/古代体験2土器、石器作り</p>
7 ボランティアって何	<p>テーマ ボランティアってという言葉の意味を知っていますか？何となくじゃなくてその意味をしっかりと考えながら行動してみよう！ 小テーマ ボランティアとは？/学校周辺で行えるボランティア1/学校周辺で行えるボランティア2/学校周辺で行えるボランティア3</p>

(5) 二人担任制について

エンカレッジスクールでは、生徒と教師の日常的な対話を基調として、心の触れ合いを大切にする指導や生徒の健康・安全のための指導に努めるため、1学級二人担任制とし、きめ細かなホームルーム指導を行うとしている。

1学級二人担任制は、「どちらかの先生が、よくまわりを見てくれているのですごくよい。」という生徒の意見にみられるように、従来の一人担任制とは異なり、ホームルームで個別指導を行う際にも、もう一人の担任がクラス全体を掌握し指導できるなど、きめ細かな生徒指導が可能となっている。

また、課題を抱える生徒に対して、担任が共同してそれぞれが違った役割を果たすことで、生徒の気持ちを落ち着かせることができた、など様々な機能を果たしている。

(6) 公募教員について

エンカレッジスクールの学校運営には、熱意のある教員が不可欠である。エンカレッジスクールの指定に当たっては、熱意ある教員を募るため、公募制を導入した。

15年度において、足立東高校では、4名（普通科全日制より保健体育科、養護学校より音楽科、地理科、保健体育科）が公募で転入したが、いずれも資質、能力、意欲ともに高く、教科指導のみならず、部活動顧問としても積極的な指導を行っている。

秋留台高校では、保健体育科の2名（普通科定時制高校及び養護学校）が公募で転入したが、意欲的に取り組んでおり、部活動顧問としても活躍している。

公募教員は、それぞれの学校で主幹、担任等を担当し、職責を十分に果たし、他の教

職員にもその積極的な姿勢が好影響を及ぼしている。特に、生活指導、部活動での活躍が顕著である。

(7) 入学者選抜について

入学者選抜の基本的考え方については、受検時の知識や技能よりもエンカレッジスクールで学ぶ意欲と熱意をみることにし、エンカレッジスクールが受け入れていこうとする生徒が入学することができるように、受検生に受検の機会を複数回提供するため、分割募集を実施する、調査書、志願理由書、面接、小論文(作文)等により選考を行い学力検査は実施しない、としている。

この基本的な考え方に従い、足立東高校では、小論文、面接(PP)*、自己PRカード、調査書、実技検査(プランニング)**により、総合的に判定している。

秋留台高校では、小論文を前期・後期選抜で実施、面接は「学ぶ意欲」で判断している。実技検査(PDS)***は前期選抜のみで実施している。

両校とも、初年度の15年度、2回目の16年度と、おおむね想定した生徒を受け入れることができている。また、「自分たちで作った問題と自分たちの目で」の視点で、従来の検査から大きく異なった自校作成問題、面接重視の選抜手法をとることで、教員の責任意識が高まってきている。

*PP(パーソナル・プレゼンテーション)

発表、演技、演奏等を通して個性、意欲、興味・関心等を表現する。その技能等を評価するものではない。持ち時間は3分。

**実技検査(プランニング)

5人程度の小グループで指定した学校行事などの企画を話し合い、個別に簡単な企画書を書く。話し合いで協調性、積極性、表現力など、企画書で創意・工夫、企画力などをみる。

***実技検査(PDS)

PDSは、Plan(計画)、Do(実行)、See(評価)の意味。1教室に受験生5人程度で実施する。試験担当者からある課題が言い渡され、5人で相談し課題の解決を図る。課題は学校生活の中でのことから出される。まじめに取り組んでいるか、仲間と協力してできるかなどを評価する。時間は50分程度。

(8) 成績評定について

エンカレッジスクールの成績評定については、観点別評価を推進し、学習への態度・意欲等を評価に取り入れるとともに、定期考査は実施せず、提出物や授業ごとに随時行う小テストなどにより多様で多元的な評価を行う、としている。

足立東高校では、小テストの実施とともに、ノートや課題等の提出、授業態度を総合して評価をしており、定期考査ほどのウエイトは占めていないが、日常的な小テストが大きな要素となっている。評定については、各教科の特性により、その割合は異なるが各教科とも小テスト、出席点、意欲・態度、課題等の提出物、その他実技等がある教科については、技能、努力点も含めた観点で評価を行っている。

秋留台高校では、実技教科(体育・家庭・芸術)については、従来どおり、実技点、

提出物、出席等で評価している。座学の教科については、これまでは授業態度が多少悪い場合でも、定期考査で高得点を取ればそれを踏まえた評価をしていたが、エンカレッジスクールへの入学生からは、学習態度（態度はどうか、おしゃべりが多いか、問題を解いているか、ノートを取っているか等）のウエイトを高めている。評定は5段階で実施している。

成績評定についての保護者からの反応はないが、一部生徒から各教科担当者に、自分の評価結果への不満、問い合わせがあった。

また、各担当者が小テストを繰り返し実施しており、各教科とも定期考査の実施時よりもテストの回数自体は増加している。生徒の中からは、「定期考査はないが、各教科で小テストが行われるので、今までより楽ではない」との意見も出ている。

今のところ、評価・評定に関して保護者からの苦情等などはなく、頑張っている子供の姿と評価・評定が、おおむね一致しているという点で評価されていると思われる。中学校の時と違い、一人一人の頑張りが評価されることで、多くの生徒及び保護者に好評である。

2 課題と今後の方向性について

足立東高校、秋留台高校のエンカレッジスクール指定校2校のこれまでの取組みを踏まえ、その課題を整理し、今後のエンカレッジスクールの運営に生かすため、より効果的な指導方法、入学者選抜の手法、校内体制の整備等について今後の方向性について検討した。

(1) 教育課程における課題と今後の方向性

ア 30分授業について

30分授業の実施における課題としては、国語・数学・英語がその中心となっているため、その教科の教員の担当授業が午前中の1、2時間目の早い時間に集中してしまうこと、及び30分単位での時間設定のため非常勤講師での授業が難しいことにより、時間割作成が困難となることが挙げられる。実際の時間割編成では、30分授業の3コマについて同じ教科が続いてしまうという状況もみられた。

30分授業は、基礎・基本の習得のためには、習熟度別授業とともに有効な方法であるが、一方では、卒業後に向けた取組として、落ち着いて50分の授業を集中して受講できるようにすることも求められている。1年次にわかる授業を徹底して、わかる、理解することの喜びを実感した上で、その学びの習慣を2年次以降につなげていくことが望まれる。30分授業から50分授業への移行上の措置として、50分授業を集中して受講できるよう、30分授業の経験を生かしたメリハリをつけた授業展開等の工夫が求められる。

イ 習熟度別授業について

30分授業と習熟度別授業との組合せによる「わかる授業」の徹底は、生徒の学習意欲を高め、基礎・基本の定着を図るには効率的、効果的な方法である。

課題としては、2年次に通常の授業展開に戻した場合、学習到達度の高い生徒と低い生徒が混在し、学習活動全体に活気を失わせることが懸念され、限られた指導体制の中で、1年次における習熟度別授業の成果を損なうことなく、2年次以降にどう引き継ぐかが挙げられる。

これまで、足立東高校では2クラス4展開、秋留台高校では1クラス2展開して習熟度別授業を実施してきたが、2クラス3展開又は3クラス4展開等の工夫も必要である。さらに、個別指導、補習等の多様な指導形態も取り入れながら、通常授業への移行を図ることが必要である。

また、秋留台高校で実施している、総合的な学習の時間での教科横断的な「ベーシック授業」を別途取り入れるなどの工夫も必要である。

ウ 体験学習について

体験学習の実施は、生徒等のアンケートにおいても学校定着の役割を果たしているとして評価されており、また、市民講師等の指導参加によって生徒の人間関係構築、地域との交流にも寄与している。今後も、学習内容の検討を進め、より充実した展開を図る必要がある。

足立東高校では、体験、体験の4単位の体験学習を地域の協力を得ながら広範囲に実施しており、今後、2年次4単位、3年次6単位の体験学習の枠を想定している。体験学習の実施については、困難な点はあるながらも地域に開かれ、地域に支えられた学校運営を実践しており、生徒への教育効果は大きいものがある。

秋留台高校では、「ベーシック」と「トライ体験」を実施しているが、体験的学習を2単位にとどめ、「ベーシック」を取り入れることで、基礎学習の徹底を図っている。「ベーシック」の教科横断的な科目設定は、生徒の個々の学習進度に応じたきめ細かな指導で、生徒にわかる喜びと学びの習慣を体得させることができしており、また、教科横断的な指導体制を組むことにより、エンカレッジスクールの取組に対する教員の一体感が醸成され、さらに、教員の生徒に対する把握がより一層深まっており、その教育効果は極めて大きい。

これら両校の取組には、展開上の相違はあるが、生徒の状況、地域事情も踏まえた取組みとなっており、どちらも良好なモデルとなっている。今後は、両者の利点を踏まえ、さらにより良い形での体験学習の展開が求められる。

また、今後、学年進行する中で、2年次、3年次に体験学習をどう位置付けるかが課題となる。他の教科指導との関係、体験場所の確保の問題、指導体制の問題等を考慮して、学年進行に伴う絞り込み、一定期間での集中実施等も検討する必要がある。

エ 成績評定について

成績評定については、次の3点の課題が挙げられる。

小テストは学年共通の問題ではなく、担当者ごとの作成、実施となっているため、成績評価に際し、クラス間の調整ができない。

定期考査ではなく、小テストであるという安易な考えを持つ生徒が出てきている。小テストでは、学習内容の定着度を把握することが難しい。

今後、これらの課題を解決するため、客観的な評価・評定という点で、保護者及び生徒に十分説明ができるよう、学校としての体制を整備し、評定手法の研究、研修を進める必要がある。

また、特に評価の低かった生徒に関する説明責任を果たすためにも、指導経過を含めた成績会議資料等の整備と、生徒に対しての適切な指導も必要である。さらに、小テストの内容の工夫・改善を図っていくことも求められる。

(2) 指導体制における課題と今後の方向性

ア 二人担任制について

当初想定した二人担任制によるきめ細かなホームルーム指導はできており、生徒の学校定着に寄与している。しかし、校内分掌との兼任についての課題もあり、今後さらに校内体制の見直しや整備を進め、より効果あるものにする必要がある。

また、エンカレッジスクールの完成年度に、全学年で二人担任制を実施した場合、学級総数の2倍の担任要員が必要となる。二人担任制の維持のためには、学級担任を持つ教員は分掌を担当せず、分掌を担当する者は担任を持たないとする、ややもすると固定的になりがちな従来の考え方を大きく変える必要がある。

この点、秋留台高校では、「全員担任、全員分掌」の理念の下、校務分掌体制の整理・統合をエンカレッジスクール第1期生を迎える前に実施している。この試みは、今までの分業体制による硬直化という弊害を克服したという点でも、大きな評価が与えられる。秋留台高校では、従来あった6分掌組織を整理して3分掌に統合し、一つの分掌を細分化し、教員全員が所属することとしている。このため、分掌上の仕事は細分化され、仕事の偏りが少なくなっており、二人担任制のスムーズな実施が可能となっている。

一方、足立東高校では、担任業務と分掌業務は旧来の仕組みを踏襲しており、エンカレッジスクール2期生が入学し、二人担任制が2学年にわたるに及んで、教員の仕事量にアンバランスが生じている。この課題を解決するためには、秋留台高校の実践を踏まえた分掌事務の再構成が必要である。

また、二人の担任の役割分担等が不明確なまま、想定した機能を果たしていない、との指摘もあった。二人担任制が従来の担任、副担任と同じような体制にならないよう、その役割、仕事内容等については、これまでの実践を踏まえ、より効果のある二人担任制の仕組みを形づくることが求められる。

イ 公募教員について

公募に対する応募者数は、足立東高校、秋留台高校の2校を合わせると、初年度9名、2年目4名となっており、2年目は大幅に減少している。特に、養護学校からの異動が初年度で採用6人中4人だったものが、2年目には4名中1名となっている。

足立東高校及び秋留台高校におけるエンカレッジスクールの取組が、十分に理解されていない状況もあり、今後、これまでの取組及び実績を、養護学校等を含めた都立高校全体に周知していくことが必要である。

(3) 入学者選抜の課題と今後の方向性

これまで、2度の入学者選抜が行われたが、入学者の調査書による成績の分布は、エンカレッジスクール指定前の入学生と同様の傾向を示しており、実技検査、面接により「学ぶ意欲と熱意」を持った、当初想定した生徒を受け入れることができています。

課題としては、面接、実技検査でアピールする力が不足するおとなしいタイプの生徒の「意欲」「熱意」の評価をどう位置付けるか、実技検査の課題設定をどうするか、などが挙げられる。

今後は、「学び直したい、基礎・基本の力をつけたい」という「学ぶ意欲と熱意」を問う、エンカレッジスクールにふさわしい生徒を受け入れることができるよう、より精度の高い検査内容・手法の検討を行う必要がある。

また、中学校からの意見聴取時に出された「頑張ったことが認められる学力検査(例：ごく簡易な漢字テスト)が必要である。」「学力テストがないとパフォーマンスだけに入れると思われそうである。」「個性、特技を認める選抜方法があっても良い。」「パフォーマンス枠と校長推薦枠を作ってはどうか。」「プランニングなどの企画モノは難しいだろうし、本来の趣旨に合うか疑問だ。」等の意見を取り入れることができるかを含め、今後検討する必要がある。

(4) その他

生徒指導については、両校とも徹底した頭髪指導を実施するなど、地域の都立高校の中でも先駆的な取組を進めている。その結果、中途退学者の減少とともに、特別指導の件数も大きく減少してきている。しかし、学習上の課題とともに、家庭上の課題もあり、就学継続が困難となる例も報告されている。今後も、二人担任制によるきめ細かな指導、カウンセリングなど相談体制の更なる充実を図っていく必要がある。

3 今後のエンカレッジスクールの展開について

足立東高校及び秋留台高校のエンカレッジスクール指定校2校におけるこれまでの取組を踏まえ、今後のエンカレッジスクールの指定、及び指定対象校の範囲等について検討した。

(1) エンカレッジスクールの拡充について

東京都教育委員会では、平成14年6月に足立東高校及び秋留台高校の2校をエンカレッジスクールとして指定し、平成15年4月、それぞれの学校では第1期生を受け入れ、エンカレッジスクールとしてスタートした。

これまで1年間であるが、足立東高校及び秋留台高校の2校においては、学力検査のない入学者選抜を実施し、「意欲と熱意」を持った生徒を受け入れ、30分授業、体験学習の導入など思い切った指導を取り入れ、自分自身を見つめて在り方・生き方を考えさせ、生徒自身の興味・関心に重点を置き、達成感を成就させる教育を展開してきた。そうした学校の積極的な取組・教育実践は、生徒及び保護者、さらには地域の方々にも受け入れられ、支持・評価を得ている。

このことは、退学者数が1年目ながら大きく改善したこと、初年度の平成15年度の入学者選抜のみならず、平成16年度の入学者選抜においても、分割前期で足立東高校が2.36倍(受検倍率)、秋留台高校が2.58倍(受検倍率)と都立高校全全日制課程の平均倍率1.33倍を大きく上回る倍率の応募者を集めていることから裏付けられるところである。

また、平成15年6月に実施したアンケートにおいても、生徒、保護者、中学校ともにエンカレッジスクールが「必要である」、「一定のニーズはある」との回答は9割を越え、「増やすべきである」、「指定校の実績を見てから」との回答も、やはり9割を越えている。さらに、中学校長への意見聴取の中でも、力を伸ばせずにいる生徒の進学先としての期待の声が多く聞かれたところである。

エンカレッジスクールの指定については、教育課題校検討委員会報告(平成14年3月)において「全日制課程、普通科の都立高校の中から指定する。エンカレッジスクールの校数については、当面、パイロットスクールとして全都で2校程度を指定し、対応を図ることとする。将来は、地域別の中途退学者数や生徒の状況等を考慮して、全都に5校程度設置することが望ましい。」としている。

今後の指定については、指定校2校の3年間の実績を踏まえた上で考えるべきであるとの意見もあるが、この1年間の実績の評価、応募者の状況、さらに生徒・保護者の期待を踏まえ、これまでの2校に加えて、地域的バランスも考慮の上、早期に拡充していくことが望まれる。

(2) 専門高校への指定対象校の拡大について

平成14年10月の都立高校改革推進計画「新たな実施計画」では、普通科高校の改善策の一つとしてこのエンカレッジスクールの指定を位置付けている。

しかし、今後の指定に当たっては、「可能性はありながら力を十分に発揮しきれずにいる生徒」を、普通科高校のみならず専門高校も多く受け入れている実態、工業、商業等の専門高校では、実習用の施設・設備が整備されており、校内で体験学習等の充実が図れること、専門高校では35人学級が導入されており、きめ細かな学習指導、生徒指導が可能であること、等も踏まえて普通科高校に限定せず、専門高校もエンカレッジスクールの指定の対象として考えていくことが必要である。

(3) 教育委員会の支援策

平成14年6月に足立東高校及び秋留台高校の2校をエンカレッジスクールとして指定するに際して、東京都教育委員会は、指定校における積極的な取組及び教育実践に対して、基礎・基本を重視した教育課程の編成、教員の公募制による指導力のある教員の確保、その他学習及び生活指導等を充実させるための必要な措置、について支援策を講じることとした。

今後も、エンカレッジスクールの指定を拡充するに当たり、これまで同様、対象校の取組状況を十分に考慮して、効果的な上記の支援策を講ずる必要がある。

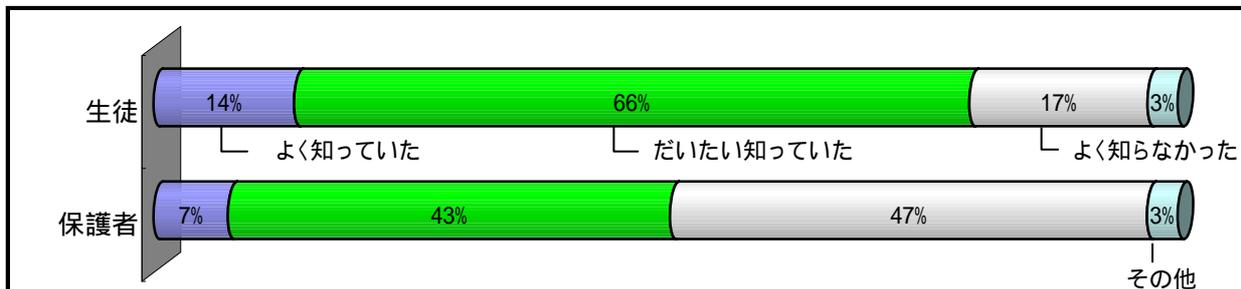
<資料 1 >

1 エンカレッジスクール アンケート

アンケート実施時期 平成15年6月1日～6月30日
回収率 65.5% (配付1,136枚 回収744枚)

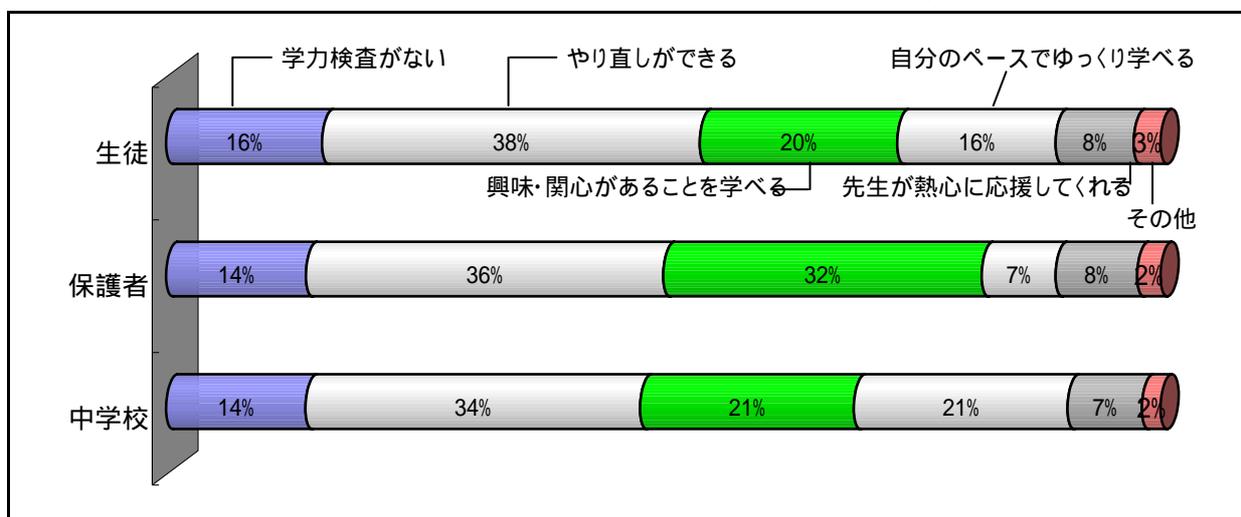
(1) エンカレッジの特色

ア エンカレッジスクールの特色はご存知でしたか。



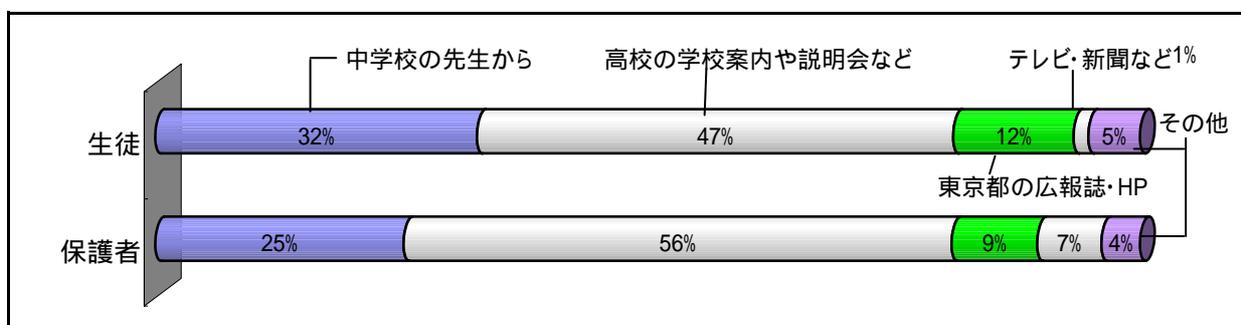
特色についての生徒の認知度は高いが、保護者の約半数には十分な理解がなされていない。
初めはエンカレッジスクールを全く知らず受験し入学しました。入ってみて、子どもにとっても向いていると思いました。こういった高校を求めている人は多いと思います。私自身、高校のとき自分に何が向いているか、自分はどの方向へ行けばいいのか、全くわかりませんでした。もっと数を増やしもっと宣伝すべきだと思います。(保護者)

イ エンカレッジスクールとは、受験前にどのような学校だと受け止めていましたか。



特色については「やり直しのできる」と「興味・関心があることが学べる」点が、生徒、保護者の共通の認識とされている。「学力検査がない」、「定期考査がない」ことを特色として認識する生徒、中学校等も一定の割合がある。受験前に親の立場からみますと「おちこぼれの学校」というイメージがありました。(保護者)

ウ エンカレッジスクールの特色はどのように知りましたか。

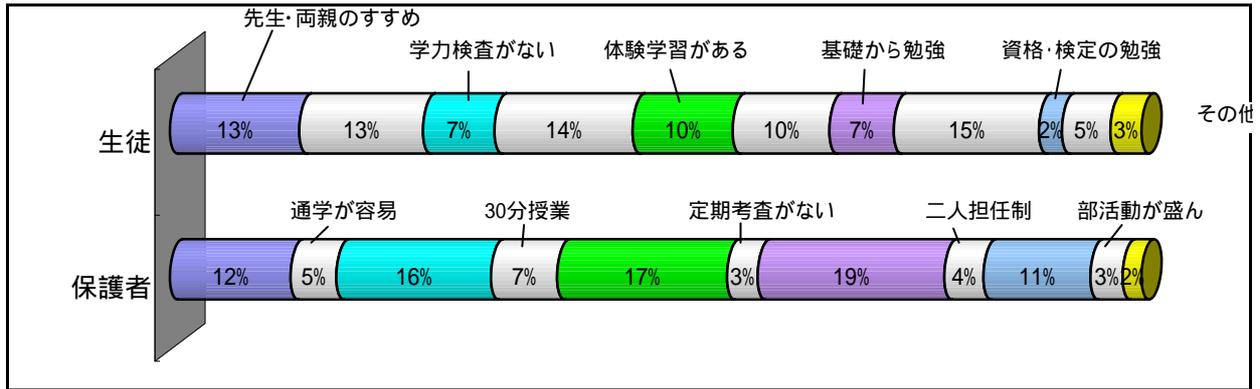


特色を知る機会は「学校の案内・説明会」と「中学校の先生から」が大半であり、学校の努力の成果がうかがわれる。

ホームページでの学校紹介、学校説明会、個人相談等うかがってみて先生方の熱心な御指導に納得するものがあり親子でどうしたら入学できるものか何度も話し合いました。(保護者)

<資料 1>

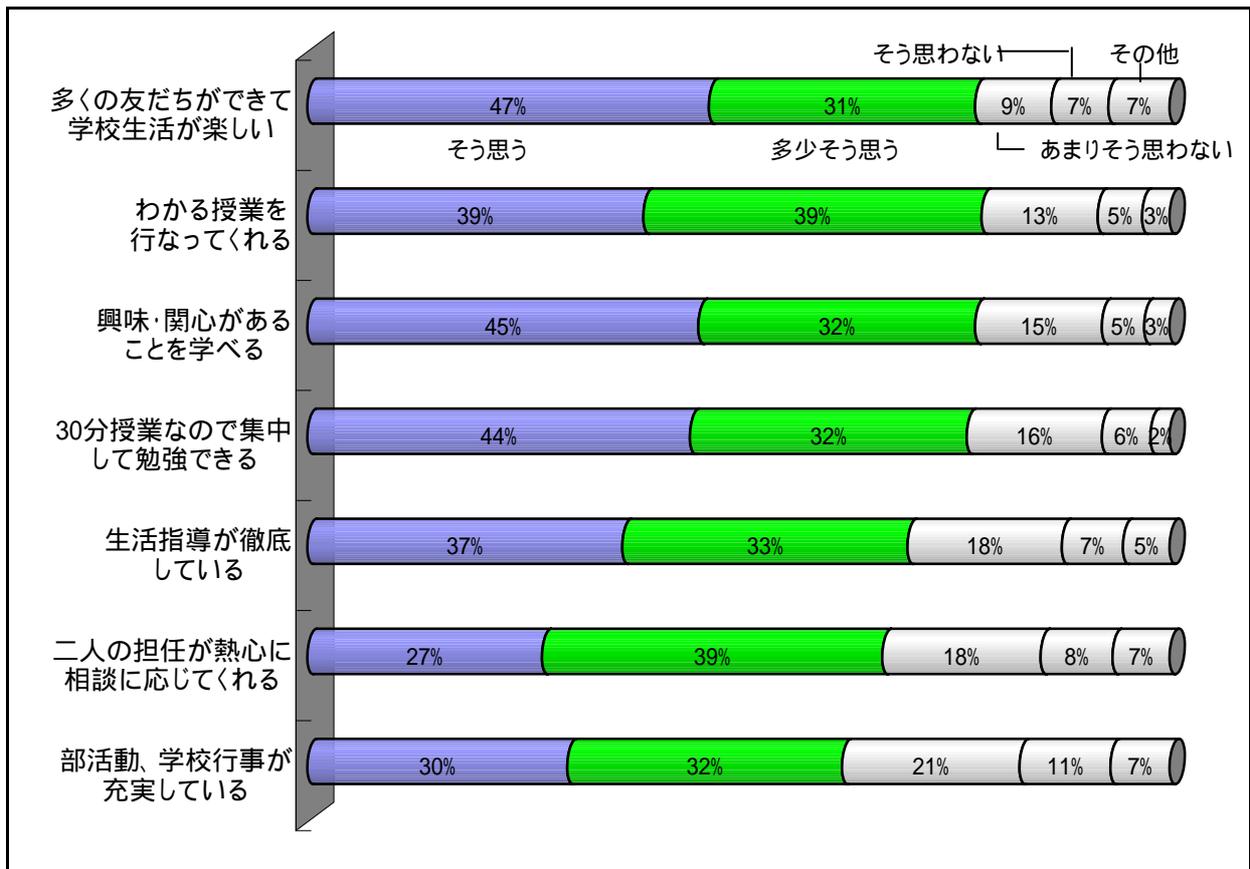
(2) 志望理由 エンカレッジスクールを志望理由した理由は何ですか。



生徒の志望理由は突出したものは無いが、「二人担任制」、「30分授業」の割合が高い。保護者では、生徒では割合が少なかった「基礎から勉強できる」、「体験学習がある」、「学力検査がない」が高い割合を占めている。中学校でもなかなか基礎的な学力が身に付かない生徒や不登校で思うような授業を受けられなかった子どもにとっては、夢の学校だと思います。高いハードルを跳ぶよりも自分の力を生かせ、伸び伸びと学び、体験学習に力を入れているのも効果的だと我が子を見て思います。”まじめな子が安心して友達を作って生き生きと学べる学校”を目指して頂きたいと願っております。(保護者)

(3) 学校生活への評価

ア エンカレッジスクールでの学校生活について(生徒回答)

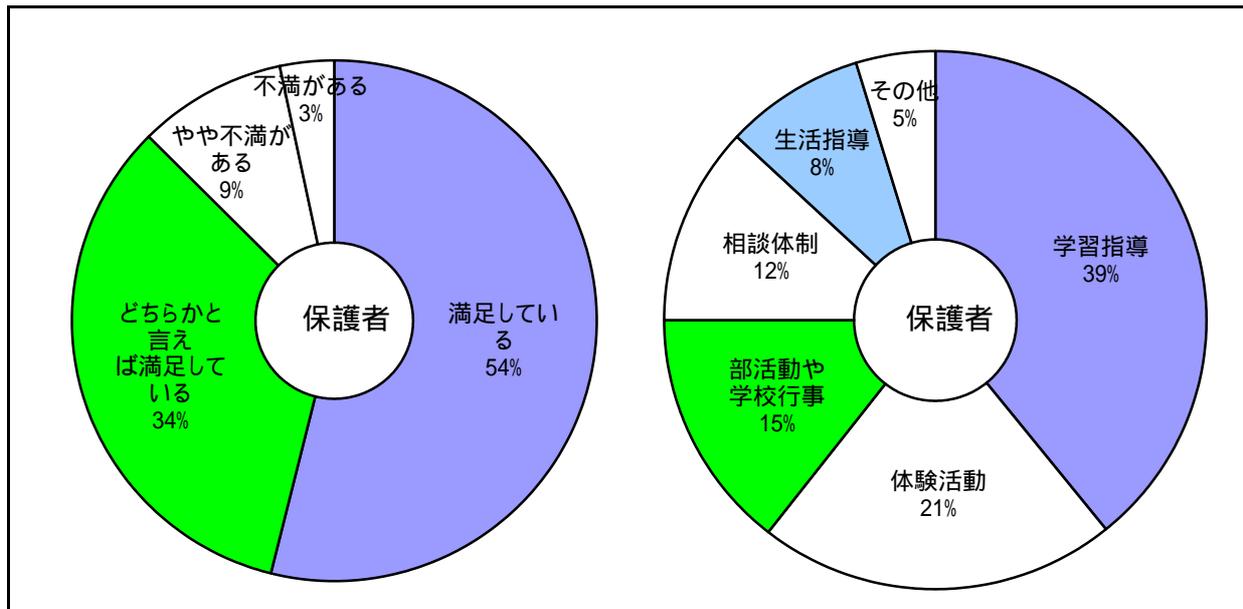


「わかる授業」、「30分授業」、「体験学習の重視」、「二人担任制」などの特色ある「工夫した」教育内容等については、ほとんどの生徒に肯定的に受け止められており、その結果、ほとんどの生徒が「学校生活が楽しい」としている。保護者も生徒と同様にほとんどが肯定的な感想を示している。
 とても楽しい。将来のために役立つことがよくわかりました。ちょっと通うのが大変だけど、でもこのエンカレッジスクールができて本当に良かった。(生徒)
 テストがないからいいと思う。毎日、一日を大切にやっていかないと成績が下がるので一日一日が大切になってくるからいいと思った。(生徒)

<資料 1>

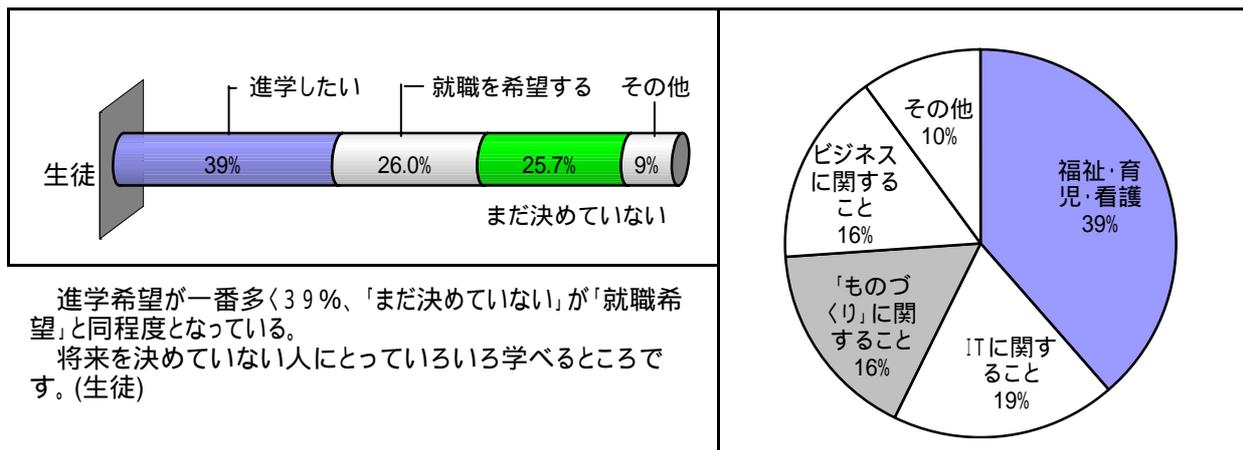
イ 保護者

お子様はどのような感想をもっていると思われますか。 その理由はどのような面に関して感じていますか。



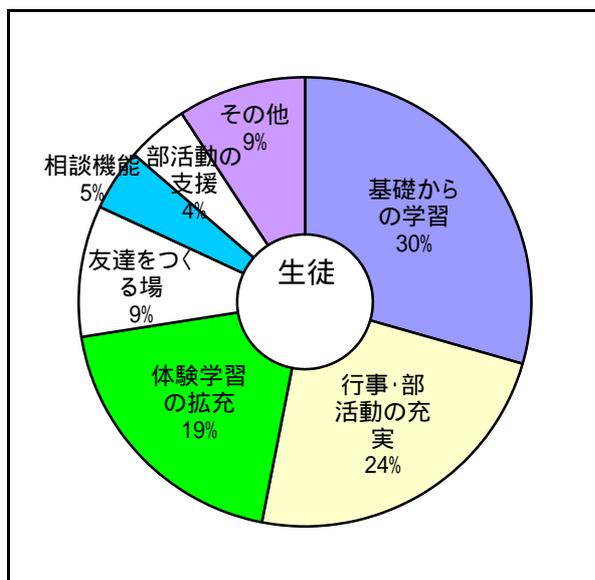
(4) 進路

将来の進路について、どのような希望がありますか。 進路決定のために、どのような授業が必要ですか。



進学希望が一番多く39%、「まだ決めていない」が「就職希望」と同程度となっている。
将来を決めていない人にとっていろいろ学べるところで。(生徒)

(5) 期待すること 今後、エンカレッジスクールで特に期待することは何ですか。



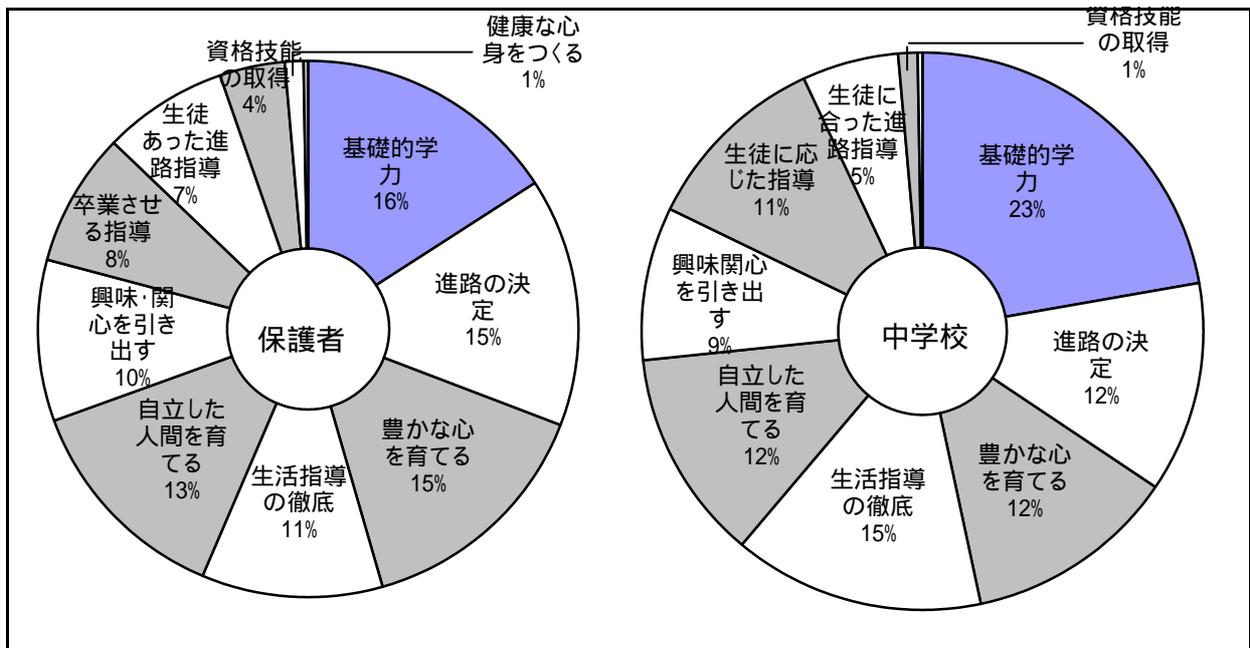
生徒、保護者、中学校ともに「基礎からの学習」を望む声が高い。特に生徒の割合が30%と高くなっている。

まだ期待と不安が入り乱れた状態ですが、一つ一つコツコツと子供と先生と私共で広げていければ成功なのだと思います。その答えは、子どもがやがて出してくれると思います。学歴社会を一掃できる日が来ることを願っています。学校に行く楽しさや意味を考えていきたいと思っています。(保護者)

基本的、基礎学習より始まり、今まで勉強が苦手だった子どもが勉強が楽しいと申します。勉強第一の勉強中心の学校だとして行けないと思いますし、勉強の楽しさ、分かることの喜び、やればできるということを知ってほしいし、子どもの力を引き出す手助けを先生方をお願いしたいと思います。(保護者)

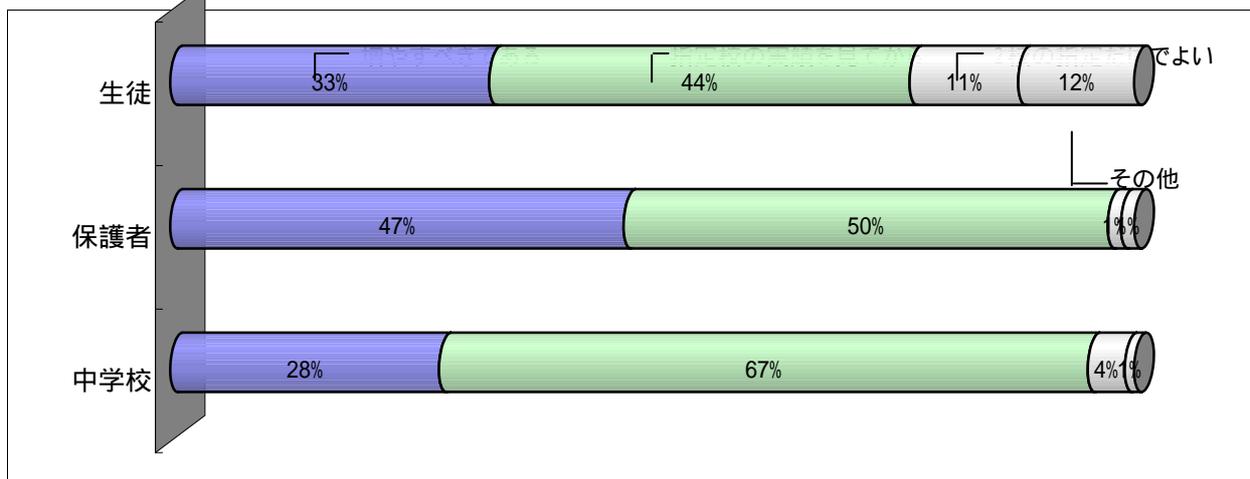
画一的になりがちな教育システムのばかりの中で、二人担任制は、子どもにとって先生との出会いはとても大きな意味、役割を持つと思います。より多くの大人との出会いは、とても大切なことだと思います。(保護者)

<資料 1>



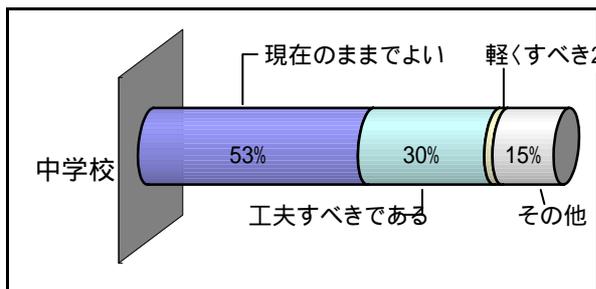
(6) その他

エンカレッジスクールは増やしていくべきだと思いますか。



「実績をみてから」とする意見が一番多く、アンケートの時期が6月ということもあり慎重な意向が示されている。全国に二つしかないのはもったいない。もうちょっと増やした方がいいと思います。(生徒)
 学力や内申を主にした学校と違い、学力不足や人になじめない子を受け入れてくれる学校だと思う。もっとこのような学校が増えてくれればいいと思う。(保護者)
 学力の低下や学習意欲の低下などの中、それでも高校進学を希望する生徒がほとんどという現状では、エンカレッジスクールの希望者(需要)はますます増えると思います。(中学校)
 まだまだスタートしたばかりで感想など早いです。結論をあせるといい結果は得られないと思います。(保護者)

エンカレッジスクールの入学者選抜について、どのようにお考えですか。



本当に基礎的な内容(例;四則計算)だけでも良いから学力検査をすべきだと考える。しかし、その点数をそのまま加点するというのではなく、参考程度でもよい。「試験がなくても入れるから」という理由で受験する生徒もいると考えられる。また、受験までの間、中学校側としても、頑張らせる「モノ」がないのは難しい。(中学校)
 ある程度、年数を経たところで(例えば2、3年ほど)、入試方法の改善を考えるべき。早急な変更はあまり歓迎できない。(中学校)

(資料2) 中学校からの意見(抜粋)

平成15年6月に実施した生徒、保護者、中学校へのアンケートの結果を受け、エンカレッジスクールについて、中学校長からの意見聴取を7月から8月にかけて、足立東高校の周辺地域の5校、秋留台高校の周辺地域5校の計10校で実施した。

中学校では、生活指導上の問題がなく真面目であるが、中学校の学習進度についていわず学力不振の生徒が1割程度は在籍しており、その生徒たちの進学先としてエンカレッジスクールには大きな関心があるとの声も聞かれた。多くいただいた意見には、学力検査のない入学者選抜についてのものが多く、実技検査の項目や実施方法、調査書の扱い、合格の基準、どういう生徒を受検させたらいいのか、等々について中学校側の確信が持てない状況も示されている。ここでは項目に分け、主な意見を掲載する。

意見聴取実施校

足立東高校の周辺地域	平成15年8月実施		
足立区立伊興中学校	足立区立花畑北中学校	足立区立東綾瀬中学校	
足立区立六月中学校	足立区立第十三中学校		
秋留台高校の周辺地域	平成15年7～8月実施		
八王子市立長房中学校	八王子市立四谷中学校	あきる野市立御堂中学校	
立川市立第一中学校	国分寺市立第四中学校		

1 エンカレッジスクールの認識・必要性について

エンカレッジスクールの必要性について、賛同する意見が多く寄せられた。

真面目(おとなしい、生活態度がしっかりしている)だが学力が付いていない、でも、やる気をだして学び直したい生徒に必要な高校である。

生徒のやる気を認めてくれる学校と捉えている。真面目な生徒を救う制度は必要である。中学校側としても協力したい。

学力不足のまま中学校を卒業していく生徒は一定数いる。中学校以前のレベルからやり直すにはエンカレッジスクールはよい。

真面目と不真面目が一緒だと真面目な生徒はスポイルされてしまう。このエンカレッジスクールの制度で生きてくる生徒は少なくない。おとなしく真面目で学力が付いていない生徒、そこそこ運動も技能もあるが学力が追いついていない生徒に合った学校だと考えている。やり直したいと思う生徒に適している高校である。

生活態度がしっかりしていて真面目であるが、学力の付いてない生徒にはよいと思う。学びなおしの場合作りは必要である。学校のコンセプトに共感する生徒が各校に一定割合(1～2割)はいるので、入選倍率は高いと予想していた。

エンカレッジスクールに反対がないのは、弱者救済の意味から当然の流れだと思う。

<資料2>

生活指導上の問題もなく、部活でレギュラーにはなれないがコツコツ努力するような生徒を受け入れてほしい。

エンカレッジスクールのような学校は必要だと思う。成功してほしい。

エンカレッジスクールは真面目で学力の付いていない生徒にはよいのだが、受入れ人数が少ない。

2 エンカレッジスクールの特色・方針について

秋留台地域では、当初のエンカレッジスクールのPR不足を指摘する意見が多かったです。一方、足立東地域では、入学者選抜の問題点に関する意見が多く寄せられた。

どういう生徒を送り出すか中学校としては悩んでいる。高校側が想定する生徒を明確に打ち出して欲しい。

進路指導で混乱している。対象を学力が付いていないが学び直しをしたい生徒とし、エンカレッジスクールが落ち着いた教育環境を考えたものなら、明確に打ち出したほうがよい。

保護者や教員に積極的に学校のコンセプトを宣伝したほうがよい。

エンカレッジスクールが想定する生徒が合格しなかった。真面目な生徒が落ちるようでは困る。

不合格が3人いたが、真面目で一生懸命だが意欲が表に現れないタイプの生徒が不合格になり、ショックを受けていた。一方、合格したのは、中学校では問題行動の多く、ただ目立つ、自己表現力に長けていて、学力検査がないから受けたという生徒だった。

エンカレッジスクールに入れたいような真面目で気が弱い生徒は、推薦、前期とも不合格で、後期では止めて定時制高校に入学した。こういう生徒は入学させてほしい。真面目で気が弱いと駄目なのだろうか。

中学校の補習授業では、ある程度わからない生徒は来るが、全くわからない生徒は来ない。エンカレッジスクールではわからないことを打ち出しているので行きやすいだろう。

3 エンカレッジスクールの入学者選抜について

両地域とも、学力検査の有無でエンカレッジスクールを選んだ生徒は少ないという意見が多く、また、学力検査のないことそのものに対しては否定的な意見が少なくなかった。実技検査については、全体的にエンカレッジスクールに入学しようとする生徒向けには、難しさを指摘する意見が多かった。

<学力検査がないことについて>

学力は低い部活で頑張っている生徒が、基礎からきちんと教えて貰える、体験学習があるなど、子どもたちなりに情報を得て受検していた。学力テストがないからと受検する生徒はいない。

学力検査ないからでなく、個を持って流されない生徒に勧めた。

<資料2>

担任の指導が入るので学力テストがないからとの理由では受検しないと思う。
学力検査があれば生徒は勉強する。

学力検査をしない方向なら、真面目な生徒が不利益を被らないようにしてほしい。例えば、一日体験やボランティアでやる気を見てはどうか。

学力検査がなく、内申が目安にならないので進路指導が難しい。

面接、小論文、自己PRカードの点数化で客観的評価して生徒を見出してほしい。自己PRや面接は、客観的な審査になるように要望したい。

<学力検査あった方がよいとする意見>

小学校レベルの問題、資料見ながら実施するテストがよい。

ごく簡単なテスト(国数や5教科など)でもよいから学力検査をやった方がよい。学力検査がないと勉強しない。

頑張ったことを認める学力検査(例：ごく簡易な漢字テスト)はあったほうがよい。

<実技検査>

おとなしい生徒には辛いだらう。

小論文や自己PRは難しいのではないか。

自己PRカードで漢字間違いがあるくらいだから、小論文は難しい。

おとなしく真面目な生徒でなく、能動的な生徒を受入れる検査だと思う。

ひきこもり傾向の生徒にプレゼンテーションは無理がある。

プランニングなどの企画モノは難しいだらうし、本来の趣旨に合うか疑問である。

<その他>

不登校で要領の良い生徒が合格し、真面目にコツコツの生徒が落ちた。そのことに、周りの生徒が納得しない状況があった。

人物重視で真面目な生徒に入ってほしい。要領いい生徒ばかりが入るのでは困るだらう。

私立高校と違い確実に合格させられないため、生徒、保護者に見通しを伝えられない。

自己PRは、何をやったのか、何をやりたいのかを重視すると考えてよいか。

進路指導の際に高校で何をしたいか聞くが、目的・目標がないまま進学しようとする。子どもが意識して考えるきっかけになる。また、目的意識があれば入学してからも落ち着くだらう。

分割方式だと中学校としては安心である。

生徒は不合格だと自信をなくす場合がある。しかし、全入ではモチベーションにならない。

行動面で問題のある生徒は入れない、受検しても無駄だ、と思わせるような選抜にしてほしい。

校長推薦の制度を作ってはどうか。エンカレッジスクールで望む生徒が入学

<資料2>

すると思う。いい加減に推薦しないし、もしダメな生徒がきたら次年度の推薦枠を削ればよい。

推薦枠を広げてほしい。成績順でないのは判るが絞込みすぎ。落ちても前期で合格している。中学校の推薦の中身を信用してほしい。校長推薦枠があると面白いだろう。

意欲、関心、態度を測るのは難しいだろうが、工夫して欲しい。

4 30分授業について

基礎基本の反復・徹底に効果あるだろう。

反復練習にはよいだろう。

30分授業ならかなり集中できる。

生徒は基礎基本に自信がないので期待している。

30分授業、少人数授業は保護者にも好評である。

じっくり講義するなら1時間単位が適当である。

50分授業より30分で数コマの方が効果がある。中学でも実施したいが教員不足でできない。

5 体験学習について

将来の職業にフィードバックできる(社会規範を身に付ける、出口を考える、社会を体験できる)ので有効である。

基礎基本がないと困ることを、社会に出て認識させる機会になるので、体験は大切である。

大人からみればたいしたことでもなくとも、子どもには新鮮に写るようである。目的意識を持たせること、社会に出て学校の勉強が役立つことを認識できると思う。

単なる見学や安易な体験活動では意味がない。

体験学習の成果は今後でるだろう。

体験は、進路学習として有効である。

体験学習が系統立っているのか、単発なのか、情報がないので判らない。

社会人として生きていく、職業に結びつくような体験学習を行うべきである。生徒には魅力的に映るようだ。

エンカレッジスクールの体験活動は地域の中学校から情報が入っている。福祉などは評判がよい。

中学でも体験学習を実施しており、好評である。

勉強ができなくても中心人物になれるという意味でよい。

中学校も総合的な学習の時間で3年は3～4時間とっている。

体験学習は、生徒を伸ばす。また、ほっとする意味で大切である。

中学校での体験学習を高校でも活用することも考えてはどうか。

<資料 2 >

体験学習もよいが、総合的な学習の時間で、生徒に課題を見つけさせて体験させたほうがよい。

生徒は、社会での体験で社会規範が身に付く。

有効なのだろうが、まだ中学の在校生に経験談を話せるほど自信はないようだ。効果出るのはまだ先だろう。

6 エンカレッジスクールの5校設置について

エンカレッジスクールの新たな設置については、など増設を望む意見が数多くあった。その反面、設置に慎重な意見もあった。

地域性や基礎基本の必要性から、増設は必要だろう。

真面目だが学力が付いていない生徒が安心して通える学校。増やしたほうがよい。

3年経過し進路を見ないと何ともいえない。

この地域の特性を考えると、校数は多いほうがいい。

最低限の基礎基本として読み・書きは必要。エンカレッジスクールは5校と
いわず増やしてほしい。

旧学区2～3に1校程度。多すぎると想定した層にぶれが生じる。秋留台高校でも遠方から通学しているのだから学習意欲はあるのだろう。

地域性を考慮した増設が必要である。

3年経過し進路を見ないと何ともいえない。

足立区内での都立志向に対応していて助かった。

区部の下町地区にもう1校設置したほうがよい。しかし、ブランド志向の地区では難しいだろう。

生徒が進路を絞れない。普通科には成績不足なので、工業、商業を選択した経緯はある。最近では目的を持つ生徒が増え、工業、商業を選択するようになってきている。

7 その他

その他の意見としては、主に地域、教員、保護者、学校運営、推薦入学制度、進路、今後の方向性などについての意見があった。様々な意見が寄せられたが、おおむねエンカレッジスクールに期待する意見が多くみられた。

1、2、3年になるにつれ成績が上がれば、世間のエンカレッジスクールへの認識は変わると思う。

エンカレッジスクール指定により、周辺の高校が影響を受け、よい効果が出ている。

教員の質を高めることは大切である。

熱意をもった教員を確保するための公募制は面白い試みだ。

<資料2>

エンカレッジスクールは、保護者に喜ばれている。

保護者は、生活指導がしっかりしており、学習面できめ細かい指導をしていると認識している。

生活指導に保護者は安心するだろう。

スクールカウンセラー(心の問題)も必要だが、ケースワーカー(生活の問題)も必要だろう。スクールカウンセラーは不登校抑止になるが、エンカレッジスクールやこの地域の場合、家庭の生活面で課題を抱えている生徒も多く、その面でも相談できるケースワーカーが必要に思う。

部活動に力を入れることは、やる気の動機付けに有効である。

今後、進路の問題は生じるだろう。

定期テストがないことは、進路に絡み3年次で出るかもしれない。

普通科に限らず職業系のエンカレッジスクールは作ってほしい。手先は器用だが勉強が苦手な生徒もいる。

生徒は学校内での不安、勉強の不安、家庭の不安を持っている。都教委はエンカレッジスクールどころか、もっとひどい生活環境にある生徒の受入先を考えるべきである。

定期テストは段階を踏んだ上で実施したほうがよい。達成感・成就感がある。

出口の考え方が見えてくるとよい。丁寧に面倒みてくれて、将来への体験学習をさせてくれて、専門学校や就職できる学校とわかれば評判になる。

エンカレッジスクールの在り方検討委員会設置要綱

(設置)

第1 エンカレッジスクールの今後の在り方等について検討するため、エンカレッジスクールの在り方検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2 委員会は、次に掲げる事項について検討し、その成果を東京都教育庁学務部長に報告する。

- (1) 指定校の生徒及び保護者、中学校関係者を通じたニーズの把握
- (2) 指定校での教育活動の成果の分析・評価
- (3) あるべき指定校数の考え方、指定校の選定方法及び実施時期
- (4) 新たな指定校における教育課程等の在り方
- (5) その他検討を要する事項

(構成)

第3 委員会は、指定校の学校長及び教育庁関係者をもって構成し、委員長及び副委員長を置く。

2 構成員は別紙のとおりとする。

(設置期間)

第4 委員会の設置は、委員会が設置された日から平成16年5月31日までとする。

(会議及び会議記録)

第5 委員会の会議は、原則として非公開とする。ただし、委員会の会議要旨と会議資料については原則として公開するものとする。

(庶務)

第6 委員会の庶務は、教育庁学務部都立高校改革推進担当が担当する。

(その他)

第7 この要綱に定めるものの他、委員会の運営に関する事項は、委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成15年3月25日から施行する。

この要綱は、平成16年3月26日から施行する。

エンカレッジスクールの在り方検討委員会 委員名簿

区分	氏 名	職 名	備考
学校関係者	嶋 英樹	東京都立足立東高等学校長	～ H16.3.31
	星野喜代美	東京都立足立東高等学校長	H16.4.1～
	細谷 七井	東京都立秋留台高等学校長	～ H16.3.31
	初見 豊	東京都立秋留台高等学校長	H16.4.1～
教育庁関係者	中島 毅	教育庁総務部教育政策室企画担当課長	～ H15.3.31
	伊東みどり	教育庁総務部教育政策室企画担当課長	～ H16.3.31
	前田 哲	教育庁総務部教育政策室企画担当課長	H16.4.1～
	舟橋 淳	教育庁学務部高等学校教育課長	～ H15.6.15
	中島 毅	教育庁学務部高等学校教育課長	H15.6.16～
	高野 敬三	教育庁学務部入学選抜担当副参事	～ H16.3.31
	坂本 和良	教育庁学務部入学選抜担当副参事	H16.4.1～
	太田耀次郎	教育庁学務部学校経営指導担当副参事	～ H16.3.31
	太田耀次郎	教育庁学務部副参事（学校経営支援センター開設準備担当）	H16.4.1～
	藤森 教悦	教育庁学務部都立高校改革推進担当課長	委員長 ～ H15.6.15
	藤本 龍夫	教育庁学務部都立高校改革推進担当副参事	委員長 H15.6.16～
	森口 純	教育庁人事部人事計画課長	
	賀澤 恵二	教育庁指導部高等学校教育指導課長	
	揚村洋一郎	教育庁指導部主任指導主事	副委員長 ～ H15.3.31
小山 利一	教育庁指導部主任指導主事	副委員長 H15.4.1～	
事務局	土屋 三男	教育庁学務部高等学校教育課計画係長	～ H16.3.31
	関 新一郎	教育庁学務部高等学校教育課計画係長	H16.4.1～
	魚津 統英	教育庁学務部高等学校教育課経理係長	～ H16.3.31
	山川 富也	教育庁学務部高等学校教育課経理係長	H16.4.1～
	渡辺 伸一	教育庁学務部高等学校教育課都立高校改革推進担当係長	～ H15.3.31
	佐野 愛子	教育庁学務部高等学校教育課計画係次席（都立高校改革推進担当）	H15.4.1～～ H16.3.31
	鈴木 光雄	教育庁学務部高等学校教育課都立高校改革推進担当係長	H16.4.1～
	大林 誠	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	～ H15.3.31
	増淵 達夫	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	H15.4.1～～ H16.3.31
	藤井 大輔	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	H16.4.1～
	佐々木 哲	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	～ H15.3.31
	牛来 峯聡	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	H15.4.1～～ H16.3.31
	宮野 聡	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	H16.4.1～

エンカレッジスクールの在り方検討委員会の検討経過

	年 月 日	検 討 経 過
第1回	平成 15 年 3 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> * 検討スケジュール等について * 成果の検証方法等について
第2回	平成 15 年 5 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> * アンケート調査項目の検討について * 成果の検証方法等の検討について
第3回	平成 15 年 10 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> * エンカレッジスクール指定校の現状報告について * アンケート調査等の報告について * 中間まとめに向けた課題の整理について
第4回	平成 15 年 10 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> * エンカレッジスクールの取組みについて
第5回	平成 15 年 11 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> * エンカレッジスクールの方向性について
第6回	平成 16 年 3 月 23 日	<ul style="list-style-type: none"> * エンカレッジスクール指定校の取組について * エンカレッジスクール在り方検討委員会の報告書について * 検討委員会設置期間の延長について
第7回	平成 16 年 4 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> * エンカレッジスクール在り方検討委員会報告(案)について
第8回	平成 16 年 5 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> * エンカレッジスクール在り方検討委員会報告(案)について